

歴博暮らしの植物苑だより

暮らしの植物苑観察会 暮らしの植物苑東屋 13:30~15:30

第118回 『ブナの木と木地屋の世界』 2月28日(土) 中川重年(本館客員教授)

第119回 『暮らしの植物苑と木の利用』 3月28日(土) 中川重年(本館客員教授)

今週のみどころ、暮らしの植物苑だより <http://www.rekihaku.ac.jp>

暮らしの植物苑特別企画 次回展示予告

木の文化

—ブナの木と木地屋の世界—

2月10日(火)から3月29日(日)

木地屋(きじや)とは木を使ってお盆やお皿、独楽など、木を加工することによって生活している方々のことです。今回の展示は木の特性を熟知した木地屋がどんな材を何に使用していたのかなどをパネルで紹介します。実際に様々な木に触れていただき、木の感触を知っていただくコーナーも設けてあります。



春麗 (ハルサザンカ群)



ヤブツバキ

冬の華・サザンカ展もカンツバキ群の花が終わり、ハルサザンカ群だけになってきましたが、地植えのツバキも咲き初めてきました。ハルサザンカ群はハウスの中にあるので鳥たちが食べにはきませんが、ヤブツバキの花を見てみてください、穴がたくさんあいているのが分かります。ヒヨドリが一番多いのですが、蜜を吸いに花びらにとまった時のトリの跡です。苑内にはツバキの品種として、明石瀉、雲龍椿、王照君、イカリ絞り、桐谷絞り、ナイト・ダラー、シロバナヤブツバキ。また侘助、リンゴツバキ(ヤクシマツバキ)やヒメサザンカ、ヒメサザンカの園芸品種ロゼフローラなどがこれから咲いてきます。ヒメサザンカは葉や花が非常に小さく、枝も細く、木も小さく同じ仲間かと思えるくらいです。ところが強い芳香があります。ヒメサザンカは白の一重咲の盃状咲で、径4cmくらいの極小輪、春咲きの花で、沖縄本島の山地に自生します。ロゼフローラは中国から英国に入ったもので、花は淡桃色の一重盃状咲きの、極小輪で春咲きです。

(ツバキとサザンカ 主婦の友社より一部抜粋)

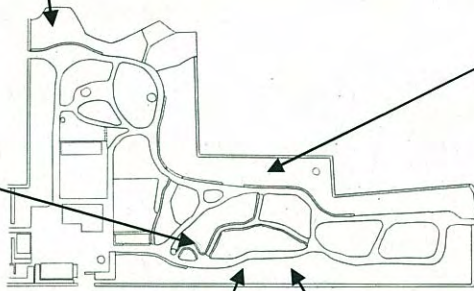
今回は刺のある植物を紹介します。



ハマナス(バラ科バラ属)
枝全体に軟毛があります。
太く扁平な刺と、針のように
細い刺があるのが分かります。
よくみると、その刺にも軟毛が
あるのが分かります。



カラタチ(ミカン科カラタチ属)
若い枝は緑色で、太く長い刺が
互生しています。



ヒイラギ(モクセイ科モクセイ属)
木の傍に行くと尖った葉と丸い
葉があるのに驚きます。
若い木は葉のふちに大きな葉牙
があります、葉牙の先端は鋭い
刺になっています。
触ると痛く鬼が逃げていくのが
分かる気がします。節分の時期に
は注目される木です。



サイカチ(マメ科サイカチ属)
幹には何回も分岐した鋭い刺が見られ
ます。刺は枝が変形したもので、分岐
点には葉痕の名残が見られます。
サイカチの種子にはサポニンを含み
薬用につかいます。



ノイバラ(バラ科バラ属)
日本の野生種で19世紀にフランス
に渡り、園芸バラの改良にきわめて
重要な花です。新枝は緑色で托葉の
基部には対になった鋭い鉤状の刺が
あります。この刺は茎の表面が変化
したものです。